東京都国公立幼稚園・こども園長会
会　報

第152号
令和7年7月11日発行
会長　鳥居三千代
江東区東陽２－１－14
03-3649-1077

改めて発信を！
主体的に遊ぶ中で学ぶ幼児教育の重要性

東京都国公立幼稚園・こども園長会
会長　**鳥居　三千代**

令和六年度から東京都と東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（ＣＥＤＥＰ）で〇歳から六歳の子どもたちの探究を支援する「とうきょう すくわくプログラム推進事業」が始まりました。都の就学前教育施設で、遊びの中での乳幼児の探究について考える機会が増え、喜ばしい限りです。

令和七年度総会後、今年も文部科学省初等中等教育局幼児教育課長　前田幸宣様にご講演いただきました。そのお話の中で、令和六年十二月二十五日に行われた中央教育審議会諮問で「顕在化している課題」の一つとして「主体的に学びに向かうことができていない子供の存在」が挙げられており、「自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性」について、様々な資料を基にご示唆いただきました。

私たち国公立幼稚園・こども園では、幼児の自発的な活動としての遊びを十分に確保することが重要だと考え、保育を進めてきています。幼稚園教育要領等に則り、主体的な遊びにおいて幼児の力が発揮され、「生きる力の基礎」が育まれるよう、益々、保育者の援助を含めた環境の構成を創意工夫し、遊びの充実を図っていくことが求められています。

七月二十五・二十六日に「第七十二回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会」が東京で開催されます。子どもたちに刻々と変化する未来に希望をもち、自分の力と可能性を信じて進んでいってほしい、そのための資質・能力を幼児期から育みたい、と願い、大会テーマを「わくわくぐんぐん　未来へ進む子どもたち―国公立幼稚園・こども園の存在意義を語ろう―」としました。全国の保育者が集まるこの大会で、私たちが大切にしてきた主体的に遊ぶ中で学ぶ幼児教育の意義を大いに語り合いましょう。そして、東京都の園長として、様々な方面へ、幼児教育の重要性を発信してまいりましょう。

園紹介

文京区立認定こども園　元町幼稚園

文京区には十園の公立幼稚園があります。そのうちの一園である本園は令和七年四月に元町ウェルネスパーク内に移転し、名称が湯島幼稚園から元町幼稚園に変わりました。区内で初めての幼稚園型認定こども園として、保育士資格を有する幼稚園教諭が、同じ園舎内で一歳児から五歳児までの保育を進めています。ふかふかな人工芝の園庭でごろごろ転がったり、二階のベランダの砂場で遊んだりそこから電車が走っている様子を見たり、新しい園舎での生活を楽しんでいます。

地域ではお祭りやイベントも活発で、園児たちも参加しています。地域の方々に見守られている幼稚園です。

お庭で食べるとおいしいな（１歳児）

広い園庭にこいのぼりが泳いでいます

総会概要

令和七年度定期総会が、五月九日、江東区文化センターにて開催された。

来賓として、東京都教育庁幼児教育・小学校教育改革担当指導部主任指導主事　西尾英里子様、東京都公立幼稚園・こども園ＰＴＡ連絡協議会会長　初澤美香様、特別区人事・厚生事務組合教育委員会事務局幼稚園教員選考・研修担当課長　髙野江美子様、全国国公立幼稚園・こども園長会会長　高橋慶子様、全国国公立幼稚園・こども園長会前会長　箕輪恵美様、東京都教育会副会長　岩永章様、東京都国公立幼稚園・こども園長会元会長　荒木尚子様、東京都国公立幼稚園・こども園長会前会長　高橋由美子様、東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事　鈴木晶子様、特別区人事・厚生事務組合教育委員会事務局人事企画課主任　中島眞佐美様、太田禎子様のご臨席を賜り、盛大に行われた。

［会長挨拶　和田万希子会長］

昨年十月に文部科学省より示された「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会　最終報告」には、国公立園それぞれの役割が明記されています。幼児期にふさわしい教育の実践、地域社会とのつながり、幼小の学びの接続の結節点としての役割は今後ますます必要となってきます。

今、特に公立園は、危機的状況にあります。だからこそ、この都の園長会で、園長自らが研鑽を積み学び合うとともに、行政・関係諸機関と交渉を進めていくための情報を得ることが重要です。各区市との横のつながりを強め、情報共有を図り、園長としての力を付けていきましょう。そして、学びや情報を生かして自己発揮し、都園長会の組織力につなげていただきたいです。今、何をすべきかを都の園長全員で共有し、困難に打ち勝っていきましょう。みなさんの知恵と勇気を合わせ、一丸となって頑張ってまいりましょう。

［来賓挨拶　西尾英里子様］

入園・進級から約一ヶ月、幼児一人一人の特性に応じ、各家庭と連携しながら安定した園生活を送れるように日々の教育活動に取り組まれていることと思います。

令和六年十二月、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」で、「幼保小の架け橋プログラム」の成果と課題を踏まえつつ、幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善について記されています。東京都教育委員会では、円滑な接続の一層の充実に向けて様々な施策を計画しています。東京都国公立幼稚園・こども園におかれましては、幼児期にふさわしい環境を通した教育を行うとともに、小学校以降の教育を見通した指導に取り組まれてきた実績がございます。引き続き、就学前教育の質の保障、架け橋期の教育の一層の充実に向けてご尽力いただきますようお願いいたします。

［来賓挨拶　初澤美香様］

公立幼稚園・こども園は、子どもが育つ場であると同時に親も育つ場、地域の方に支えられている場であることを感じています。今後もより一層の連携をお願いいたします。

この後、来賓紹介、新会員紹介、議事と滞りなく進行し、令和七年度役員、活動方針や計画などが審議、承認された。また、鳥居三千代新会長より、「こどもまんなか社会」「量から質へ」との挨拶とともに、東京大会について語られた。

令和七年度　東京都国公立幼稚園・こども園長会活動方針

日本は今、大きく変化していく社会を見据え、子どもに関する取組・政策を社会のまんなかに据えた「こどもまんなか社会」の実現を目指している。国では、こども基本法に則った「幼児期までのこども育ちに係る基本的なビジョン（はじめの一〇〇か月の育ちビジョン）」の策定等、具体的な取組を推進している。

東京都でも、チルドレンファーストの社会の実現に向けてすでに施行している「東京都こども基本条例」の取組の中で「こども未来アクション」を策定し、子ども政策強化の方向を示している。その中には、幼稚園や保育所といった施設類型の垣根を越えた共通のプログラム「とうきょうすくわくプログラム」や子どもが多様な他者と関わる場の提供など既に様々な施策が進められている。

幼児教育は、学校教育の始まりとして、一人一人の幼児が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働する資質・能力の基礎を育むことが求められる。また、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるための素地を培うことが重要である。グローバル化やデジタル化が進む今だからこそ、遊びを通して幼児期にふさわしい体験を重ね、生涯を豊かに生きる基盤としての資質・能力を育むことの重要性がより見直されている。

東京都国公立幼稚園・こども園は、幼稚園教育要領等を着実に実践するとともに時代や社会の要請に応え、その専門的知見やノウハウを他の幼稚園教育施設に提供するなど、地域の幼児教育の質向上に、おいて重要な役割を果たしてを役割、特に、地域の幼児教育施設や小学校との連携を推進し、架け橋期の教育の要として活動の充実等、地域の就学前教育充実の中核を担うなど、その存在意義があり、また、子育てを取り巻く環境が多様化している現在、家庭と地域、行政をつなぎ、地域・社会全体で子ども・子育てを支えていく意識を醸成していくことにおいて、誰一人取り残さない国公立園だからこそ担える役割は大きい。

一方で、公立幼稚園の園児数、在園児数の減少は加速度的に進み、地域に公立園がないという状況も生まれている。国公立幼稚園の園児が役割を果たしていくためには、本会を通して園長同士がつながり、各自治体の幼児教育に対する動向を注視しつつ、情報を共有していくことがますます必要となる。今年度は、全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会を東京で開催することを生かして、未来を生きていく子どもたちのための幼児教育の展望を保育者同士で語り合うとともに、つながりを広げる機会としたい。さらに、会員の結束の下、東京都教育委員会及び各区市教育委員会、特別区人事・厚生事務組合教育委員会、関係諸団体の理解と協力を得て、人間尊重の精神を基調とした幼児期にふさわしい教育を更に充実させ、日本社会に根差したウェルビーイングを推進していくため、積極的に取り組むものである。

＊＊＊＊活動の重点＊＊＊＊

東京都国公立幼稚園・こども園の果たすべき役割を明確にし、その推進を図ることを目標とする

１　幼稚園教育要領等を踏まえた創意工夫に基づく幼稚園・こども園の教育の質の向上に努める

○幼稚園・こども園の教育の充実・発展のために、幼児期にふさわしい豊かな教育環境を創造し、「生きる力」の基礎を培う。

○近隣の小学校、私立幼稚園、保育所をつなぎ、地域の架け橋期の教育の充実を図り、幼児期の教育の更なる質の向上と学びの接続を推進する。

○幼児期の直接的・具体的な体験を更に豊かにするためのＩＣＴ環境の活用を工夫する。

２　保護者・地域と共に、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める

○家庭や地域の状況が多様化する現状を考慮した子育て相談事業や幼稚園・こども園の子育ての文化・情報の発信の工夫により、保護者が子育ての喜びや生きがいを実感できるようにする。

○幼児教育のセンター的役割を果たし、地域の乳幼児をもつ家庭を支えるとともに、保護者が自らの学びを通してより豊かな子育てができるよう支援の充実を図る。

○教育活動の一環として預かり保育の質の向上を図るとともに、子育ての支援に努める。
○地域の教育力を生かすとともに、東京都公立幼稚園・こども園ＰＴＡ連絡協議会との連携を密にし、共に活動し、幼児期の教育の充実を図る。

3　保育者の資質・能力の向上を図る

○自ら意欲的に学び、使命感と豊かな識見や指導力をもった保育者を育てるために、関係諸機関からの理解や協力を得ながら、研修体制の充実に努める。
○子どもの最善の利益を守るため、保育者の人権感覚を磨き、人権課題についての理解と認識を深める機会や研修体制の充実を図る。

4　幼稚園・こども園の環境や教育諸条件の整備・充実に努めるべく、関係諸機関と連携を図る

○実施した調査や国や自治体の方針を踏まえ、情報の共有化を図り、関係諸機関へ積極的に働き掛ける。
○保護者や社会のニーズに応じた三年保育の拡充及び預かり保育等の整備と充実を図る。
○誰一人取り残すことのない教育を目指し、障害のある幼児や日本語を母語としない幼児等、様々な支援を要する幼児について、人的配置や環境整備、関係諸機関との連携など、諸条件の整備を図る。
○行政との連携による業務のＩＣＴ化による働き方改革を推進し、保育者の業務の負担軽減を図ることで、園内外の研修への参加や自己研鑽の時間を確保し、園全体の教育力を高める。
○災害時の安全に対応するため、施設の防災機能の強化に向けて関係諸機関との連携を図る。

5　組織を生かし、課題解決に努める

○課題解決のために、国・各区市園長会との連携を強化し、組織の一層の充実を図る。
○幼稚園・こども園の教育の重要性とともに、国公立園の強みとその存在意義を広く発信し、家庭や地域、行政機関との連携を図る。

令和７年度役員

会　長	江東・南陽幼	鳥居三千代
副会長	台東・富士幼	足立祐子
副会長	江東・豊洲幼	福原良子
副会長	千代田・九段幼	横澤峰紀子
庶務部長	千代田・ふじみこども園	小林晶子
会計部長	世田谷・砧幼	島崎智恵
渉外部長	江東・東砂幼	芦田敦子
広報部長	中央・晴海幼	上竹陽子
調査部長	葛飾・北住吉幼	矢野靖子
研修部長	文京・第一幼	吉羽優子
課題研究部長	墨田・立花幼	宮田宏子
監　査	台東・竹町幼	鈴木真紀子
監　査	杉並・成田西子供園	齋藤由美

令和７年度 園長会長及び園数と園児数等

（４月１日現在）

	区市	会長名	園名	園数（休園）	園児数	専任園長数	副園長数
1	千代田	穴原江美	いずみこども園	8	475	5	3
2	中央	竹谷直史	月島第二幼稚園	14(1)	938	9	5
3	港	藤井未知江	三光幼稚園	12	649	11	5
4	新宿	古川ワカ	四谷子ども園	24(7)	590	4	4
5	文京	小岩井聡	小日向台町幼稚園	10	437	10	7
6	台東	和田万希子	石浜橋場こども園	11	435	9	3
7	墨田	河原宏子	緑幼稚園	5	88	3	2
8	江東	福原良子	豊洲幼稚園	15(1)	584	12	8
9	品川	丸山智子	二葉幼稚園	8	359	4	3
10	目黒	高橋慶子	みどりがおかこども園	3	176	3	2
11	世田谷	糸川応子	松丘幼稚園	8	259	7	6
12	渋谷	山澤拓郎	広尾幼稚園	4	114	2	3
13	中野	小池友美	かみさぎ幼稚園	2	106	2	2
14	杉並	齋藤由美	成田西子供園	6	308	6	2
15	豊島	岩本卯月	池袋幼稚園	3	39	1	0
16	北	髙沢ゆみか	うめのきなかよしこども園	3(1)	128	2	2
17	荒川	竹下佳余	花の木幼稚園	6	227	3	1
18	板橋	井上朋子	高島幼稚園	1	56	1	0
19	練馬	檀原雅恵	光が丘さくら幼稚園	3	122	3	3
20	足立	澤田好	鹿浜こども園	3	260	3	0
21	葛飾	矢野靖子	北住吉幼稚園	1	25	1	0
22	江戸川	東美和	船堀幼稚園	1	51	1	0
23	日野	石川星子	第七幼稚園	3	41	3	0
24	国立大附属	出口哲生	お茶の水女子大学附属幼稚園	2	355	1	3
	合計			156(10)	6822	106	64

定期総会講演概要

（令和七年五月九日講演）

「東京都国公立幼稚園・こども園長会に期待すること」

文部科学省初等中等教育局幼児教育課長
前田　幸宣　氏

Ⅰ　子どもたちを取り巻く現状

これからの日本社会は、人口減少・少子化が急速に進んでいくと推計されている。人口は、一つの国力の源泉であり、人口が減るということは、日本人以外の人口でそれを補うようになるのに加え、一人一人の資質・能力を向上させていくことが大切である。二〇六七年には総人口の一割が外国人だと推計され、グローバル社会に到達していくという状況になり、外国人と一緒に仕事をする機会が当たり前になる。文化や歴史の異なる国の方々とコミュニケーションをとっていくために、求められる能力として必要なのは語学のみでなく、むしろ伝えようとする姿勢、本当に伝えたいことがあるかどうか、自分の意見をもっているかどうか、ということが大事な視点になっていく。

世界競争力ランキングによると、日本は二〇二三年過去最低の数値である。明らかに競争力が低下しており、これまでの働き方による生産性では、立ちいかなくなっていると言える。以前住んでいたフランスでは、生活の優先順位一番は家族、二番が自分の時間で三番目が仕事であり、残業はなく、夏休みは二か月必ず取ることが法律で義務付けられている。日本的な働き方とは全く違うが、そのフランスでさえ日本よりも一人当たりの生産性が高いという状況である。これまでの働き方をこのまま継続してよいのかどうか、解消を図っていかなければならないということだと思う。また、ＧＤＰにおける日本の比率は大幅に低く、将来的にも低下することが見込まれている。

人口が減る一方で、代替する職業が出てきて、人とモノをつなげて価値創造ある社会をつくっていくＳｏｃｉｅｔｙ五・〇の社会が訪れる。人生百年時代となり、マルチステージの人生への転換、仕事もするが組織にとらわれない働き方も訪れてくるだろう。経済的な豊かさだけでなく、個人の心の豊かさや生活の質が重要となる。日常的に情報にあふれている状況では、情報活用能力、つまりＩＣＴを学びの道具として賢い付き合い方を教える授業が必要であり、ジョブ型雇用・中途採用の増加といった労働市場の流動化が進む中では、自分で課題意識をもって学ぶ姿勢、探究する力、学び続けることが益々求められる。そして、ＧＤＰに代表される経済的な豊かさのみならず、日本社会に根差した調和と協調に基づくウェルビーイングを向上させていくことが大切である。

Ⅱ　三要領・指針の改訂

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（令和六年十二月二十五日中央教育審議会諮問）」では、子供たちを取り巻くこれからの社会状況は、少子化・高齢化、グローバル情勢の混迷、生成ＡＩ等デジタル技術の発展等で、不確実性が高まる。そのため、「自らの人生を舵取りする力」、つまり、他者の評価ではなく、自分なりに幸せを求めて舵を取る力を身に付けることが重要である。持続可能な社会の創り手を育てること、テクノロジーを活用して多様な個人の思いを具現化するチャンスを生み出し、全ての子供が豊かな可能性を開花できるようにすることが不可欠である。顕在化する課題としては、主体的に学びに向かうことができていない子供の存在がある。多様性を包括し、それぞれの得意分野を生かして共生社会を実現する観点も重要である。幼児教育に関わる審議はこれからだが、設置者や施設類型を問わず質向上を図る共通的方策の議論は、こども家庭審議会と合同でも行われていくことになるであろう。

幼児教育は、その先の教育を見通す必要があり、資質・能力の基礎を育む、まさに生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることは変わらない。小・中学校では子供の多様性が見られる中、「学校」と「個々の児童生徒」単位の柔軟化を組み合わせた「二階建て」で複層的に包摂できる教育課程編成の議論が進んでいる。多様性に対する配慮を推進していくことは、すでに幼稚園教育要領及び解説の中に謳われていることではあるが、次の要領改訂にあたっ

ては、多様性のある共生社会の実現に向けて、どういうアプローチをしていくかが一つのテーマになる。様々な価値観をもっている子供が多様性を包摂して可能性を開花する教育が、次期要領の中でキーワードの一つとなると考える。これまで培ってきた幼児教育で実践してきた自立心・自己肯定感の土台をより強固に形成していくことが、将来的に子供たちが生きていくグローバルな社会、不安定な社会、新しい価値観を取り入れる社会の中で最も大切である。自立心・自己肯定感があってこそ、人と共生していける。これまで実践してきたことが益々大事になってくる。

Ⅲ　幼保小の接続

幼保小の架け橋プログラム促進事業は令和七年度予算の柱の一つであり、架け橋期のカリキュラム作成については令和五年二月に提言化されている。諸外国でも幼児教育と小学校を教育省庁で所管しており、接続の観点からも幼児教育は学びであることが明確である。ＯＥＣＤの幼児教育・保育白書では、日本の架け橋プログラムに参加した小学校では、幼児教育での経験、遊びや生活経験のつながりを意識した指導が行われ、登校渋りの減少も報告されている。

幼児教育推進体制等を活用した接続のイメージは、横のつながりとして、幼児教育センターにいる幼児教育アドバイザーが施設類型を問わず、幼児教育に関する指導や研修を実施して教育の質を高める取組を行う。縦のつながりとして、架け橋期のコーディネーターを幼児教育センターや教育委員会等に配置し、架け橋期のカリキュラムを作成する。地域と家庭も重要なステークホルダーである。ここでも、幼児教育センターが地域の幼児教育を支援する重要な要素となる。幼児教育センターを通じた地域の幼児教育支援体制には、幼小教職員の交流、合同研修などがあり、コミュニティ・スクールの活用も一つの方法である。委員に「近隣幼稚園等」の一文を加えたので、教育委員会が認めれば園長が学校運営協議会の委員となることができる。園教育の取組を直接小学校や地域に伝える機会を得られるので、一つのツールとして活用いただきたい。

架け橋プログラム事業を採択した自治体の成果として、主体性を発揮する児童の増加、登校渋りの減少において、その他の自治体とかなりの差が見られた。指導方法については、幼児教育施設では小学校進学への興味や期待を膨らませる指導、小学校では児童が安心して活動できる教室環境や授業の工夫など幼児教育の考え方を参考とした指導などが増えたと報告されている。また、幼児教育の指導方法を学校全体で学ぶことで小学校全体にポジティブな影響が見られたとの報告もある。教育委員会に私立幼稚園・保育所・認定こども園などへも積極的に関与することの働き掛けや、小学校側へのアドバイザー配置など、様々な取組を活用しながら架け橋プログラム事業の全国的な促進を考えている。今年四月に作成した動画（※）など、こうした参考資料もいろいろなところで展開していく。研修の機会などで活用していただきたい。

※文部科学省動画コンテンツ「幼児教育は何のため？（幼児期の大切な学びが分かる動画）」を視聴

Ⅳ　その他

幼児教育への投資の効果として、質の高い幼児教育を受けることは、その後の所得や行動にも寄与することが調査から示されている。文部科学省で昨年度から行っている大規模縦断追跡調査においても、幼児教育が子供の発達、小学校以降の教育や生活にどう影響を与えるかについて明らかにしていきたい。

幼稚園・こども園は「いじめ防止対策推進法」対象外だが、いじめ防止にかかる基本方針を定めるなどの対応が重要である。今年十月一日から、保育者による虐待（身体的虐待・心理的虐待・性的虐待・ネグレクト）についても通報義務が課せられ、都道府県は、それぞれの施設の虐待状況を毎年公表することが新しく義務付けられる。ガイドライン作成作業をこども家庭庁で進めている。

有識者検討会でも、教育要領を最も実践し、地域の中核的存在、障害のある子供や外国籍の子供の積極的受け入れをしているのが国公立園と明記している。幼児教育の質の向上、受け継いできたノウハウを引き継ぐことなど、様々な施策を交えて展開していく。幼児教育は小学校につながる基礎である。引き続き尽力いただきたい。

各区市の情報より

練馬区
「夢や目的をもち困難を乗り越える力を備えた子どもたちの育成」

練馬区立北大泉幼稚園長　金子洋子

練馬区は、様々な路線が通り都心への通勤・交通の便がよいだけでなく、公園・児童遊園数や農地面積の割合では二十三区で第一位であるなど、豊かな自然が息づく環境も両立した住宅都市である。住みやすさや子育てのしやすさから、二十三区内で二番目に人口が多い区である練馬区は、子育て支援の充実、特に、待機児童の対策に力を入れており、令和二年から四年連続待機児ゼロを実現している。また「練馬区教育・子育て大綱」における教育分野の目標として「夢や目的をもち困難を乗り越える力を備えた子どもたちの育成」を掲げ、教育の質の向上や家庭や地域と連携した教育の推進、支援が必要な子どもたちへの取組の充実の三つの視点で幼稚園・小学校・中学校ともに教育活動に取り組んでいる。練馬区立幼稚園においても、次代を担う心豊かでたくましい幼児の育成を目指し、人格形成の基礎を培う幼児期にふさわしい創意ある幼児教育の実現に向けて、次のような取組を行っている。

【架け橋期の教育の充実～ねりま幼保小の架け橋期プログラム～】

令和五年三月に、文部科学省中央教育審議会の幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会より幼保小の協働による架け橋期の教育の充実が公表されたことを受け、練馬区でも、令和六年三月に「ねりま幼保小の架け橋期プログラム」を作成するに至った。その過程において、区立幼稚園がリーダーシップをとって推進に尽力した。本プログラムを受け、練馬区立幼稚園教育会では、練馬区小学校教育会の生活科・総合的な学習の時間研究部と連携を取りながら、検証や研究を進めているところである。

【多様性を尊重したインクルーシブ教育の実践】

練馬区立幼稚園三園では、特別な配慮を必要とする幼児（医療的ケア児を含む）を受け入れる素地を長年において培い、共に育ち合うインクルーシブ教育の実践に取り組んでいる。都立特別支援学校コーディネーターや国立特別支援教育総合研究所、練馬区こども発達支援センター等と連携し、それぞれの園において巡回相談や特別支援教育研修会を定期的に実施し、会計年度任用職員を含む全教職員で、インクルーシブな教育に向けての研鑽を重ね、個々の理解推進や資質向上につなげるとともに組織としての実践にも活かしている。このような継続した取組が実績となり、練馬区の幼児教育における特別支援教育を推進する立場を担い、近隣私立幼稚園・こども園や保育所に研修の機会を提供したり、共に学ぶ機会をつくったりといった取組も行っている。また、研究の面においては、二年に一回、練馬区教育委員会教育課題研究指定園を受け発表を行っている。今年度は「多様性を尊重し、一人一人が輝く幼稚園を目指して～共に育つ・共に育む教育課程の編成を考える～」をテーマに、光が丘むらさき幼稚園が十一月に研究発表を予定している。

【人権を基盤とする教育・研修プログラムの実施】

練馬区において令和三年度から五年度にかけて連続して児童生徒への性暴力が発生したことから、教育委員会は令和五年に有識者などによる練馬区児童生徒への性暴力等防止特別対策委員会を設置し、本委員会からの提言を受け、人権を基盤とした教育・研修等プログラム作成委員会が設置された。こちらは幼小中の校園長および教員で構成され、生命の安全教育を含め、教職員による幼児・児童・生徒への性暴力を起こさないために、練馬区独自の幼児・児童・生徒向けの教育プログラムと全教職員を対象とした研修プログラムの作成を行った。令和七年度からは「人権を基盤とした教育・研修等プログラム」の実践が始まり、教職員向けの研修を心理士および指導主事等を講師として職層や教職年数に応じて実施する。幼稚園・小学校・中学校と発達段階に応じた取組の実施後には、練馬区児童生徒への性暴力防止対策評価委員会を設置する予定となっている。

令和７年度　公開研究発表園一覧

研究発表月日		区・市幼稚園名	研究主題	電話・最寄り駅	指定種別
10月	31日	中野区立 かみさぎ幼稚園	自分も大事　相手も大事　ともに生きる　かみさぎっ子 ―共感性を育む援助を探る―	03（3999）7361 西武池袋線　富士見台	区
	31日	豊島区立 池袋幼稚園	夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して	03（3986）8233 副都心線・JR・ 丸ノ内線・有楽町線・ 東武東上線　池袋	都 区
11月	12日	墨田区立 柳島幼稚園	互いのよさを生かし、協同して遊ぶ幼児を育てる ～つながり合う環境づくりを目指して～	03（3625）1344 JR　錦糸町 京成押上線・都営 浅草線・半蔵門線・ 東武スカイツリー線 押上	区
	14日	港区立 中之町幼稚園	意欲的に遊ぶ幼児を育てる ―豊かな遊びがあふれる園庭環境の工夫と援助―	03（3405）7619 千代田線　乃木坂 日比谷線　六本木	区
	14日	東京学芸大学 附属幼稚園 小金井園舎	幼児教育を語る・伝える保育者 ―保育の視覚化の工夫２―	042（329）7812 JR　武蔵小金井	園独自
	15日	東京学芸大学 附属幼稚園 竹早園舎	未来を切り拓く子どもの主体性が活きる学び （幼小中連携研究）	03（3816）8952 丸ノ内線　茗荷谷	園独自
	19日 公開保育・ 研究協議会 26日 公開保育・ 講演会	江東区立 なでしこ幼稚園	ひとみ　かがやく　なでしこキッズ ―“やりたい”がいっぱいの園庭環境―	03（3640）7275 都営新宿線　大島 JR錦糸町～都バス 北砂五丁目団地	区
	20日	練馬区立 光が丘むらさき 幼稚園	多様性を尊重し、一人一人が輝く幼稚園を目指して ～共に育つ・共に育む教育課程の編成を考える～	03（3976）7221 都営大江戸線 光が丘	区
12月	12日	中央区立 晴海幼稚園	「やりたい」があふれる！ ―幼児の心が動く環境と援助の工夫―	03（3532）2923 都営大江戸線・ 有楽町線　月島	区
	12日	文京区立 第一幼稚園	遊びや生活の中で、学ぶ姿を見つめる ―幼児期の学びを保護者・地域と共有して―	03（3811）0072 都営三田線　白山 南北線　東大前	区
	中旬	杉並区立 下高井戸子供園	夢中になって遊ぶ幼児の“時”を意識して ―つくって遊ぶ場面から環境構成と援助を考える―	03（3303）9485 杉並区教育委員会 公式チャンネルによる 動画配信	区
1月	16日	目黒区立 ひがしやま幼稚園	自分が好き　みんなも大好き　ひがしのこ ～みんなが気持ちよく生活するための自己表現ができる幼児の育成～	03（3791）4615 東急田園都市線 池尻大橋	区
2月	６日	お茶の水女子 大学附属幼稚園	「つくる」がうまれる暮らし　３年次 ―つながる―	03（5978）5881 丸ノ内線　茗荷谷	園独自

＊５月31日現在の情報です。今後、変更になることもあります。
＊指定種別　区→区教委　都→都教委

会務報告

四月

四日　役員会
十一日　役員会・幹事会・各部会
十六日　東京都公立幼稚園・こども園教育研究会定期総会（会長）
二四日　会計部会
二八日　研修部会（オンライン）

五月

九日　東京都国公立幼稚園・こども園長会定期総会・講演会
十六日　東京都公立幼稚園・こども園ＰＴＡ連絡協議会新旧理事会
二三日　広報部会
研修部会
課題研究部会
二九日　日本教育会東京都支部総会

六月

四日　東京都公立幼稚園・こども園教育研究会実技研修会
五日　東京都教育会総会・教育講演会
役員会・幹事会
六日　東京都公立幼稚園・こども園副園長会定期総会・講演会（会長）
十日　全国国公立幼稚園・こども園長会常任理事会・総会・研究大会　大分大会（会長・副会長）十四日まで
十九日　東京都公立幼稚園・こども園ＰＴＡ連絡協議会総会（会長）
二十日　会計部会
二四日　課題研究部会
二六日　研修部会（オンライン）
二七日　各区市園長会長会

七月

四日　全国国公立幼稚園・こども園長会常任理事会
十一日　役員会・幹事会
十四日　調査部会
十七日　課題研究部会
二五日　全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会
関東甲信越国公立幼稚園・こども園長研究協議会　東京大会　二六日まで
二八日　全国幼児教育研究大会　滋賀大会　二九日まで

八月

六日　特別区園長・副園長等専門研修
九日　全国国公立幼稚園・こども園ＰＴＡ連絡協議会　岩手大会　十日まで
十九日　東京都公立幼稚園・こども園教育研究会　夏季研修会
二一日　日本連合教育会研究大会　茨城大会　二二日まで
二二日　東京都公立幼稚園・こども園副園長会夏季研修会（会長）
二三日　日本教育会東京都支部講演会
研修部会
二六日　課題研究部会・講演会
二八日

全国国公立幼稚園・こども園長会 総会・研究大会報告

六月十三日、十四日、第七十六回大分大会が「子どもたちの明るい未来へとつながる幼児教育の創造～今、国公立幼稚園・こども園が果たすべき役割とは～」の主題の下に開催された。

高橋慶子会長の挨拶で「現在、幼児教育を取り巻く環境は大きな転換期を迎えている。この変革の時代において見失ってはいけないことは『幼児教育の本質』である」との話があった。その後、令和六年度の活動報告、会計報告、監査報告があり、承認された。続いて会長から今後の本会の持続的な発展と質の高い幼児教育の推進のための審議・提案があり、令和七年度の活動方針案、活動計画案、予算案、など全て承認された。

文部科学省初等中等教育局幼児教育課長　前田幸宣様の講話「これからの幼児教育の課題と国公立幼稚園・こども園長会の役割」では、幼児教育を取り巻く現状、今後幼児が生きていく未来の状況を具体的にお話いただき、幼児教育で大切にしていくことをご示唆いただいた。

二日目には、主題に基づく三つの提言がなされた。

提言Ａ（教育課題）「弘前大学教育学部附属幼稚園におけるインクルーシブ教育」～ぴあルームとの協同～　青森県　弘前大学教育学部附属幼稚園　羽賀理副園長　附属学校園特別支援教室　木田詞子特任助教

○障害の有無に関わらずニーズに応じてケアを行うインクルーシブ教育

○子育ての不安に寄り添う子育て相談と個に応じた養育

○日常の保育現場でのＯＪＴ（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）

提言Ｂ（教育内容）「つながる　広がる　子どもの育ち」～ともに学び育ちあうために～福井県　鯖江市片上幼稚園　茨田隆徳園長

○幼児の育つ過程を理解し、遊びがつながり学びが深まるための環境構成や援助の工夫を考える。

○語り合い、学び合う園間の協働体制と共通理解から保育の質向上を図る。

提言Ｃ（園経営）「心と心を通わせ、生き生きと生活する子どもの育成を目指して」～つながり合う園経営を考える～島根県　松江市立やくも幼保園　原田弘子園長

○子どもと保護者と職員がつながるための教育・保育のあり方を工夫する。

○子どもを取り巻く豊かな自然環境・文化・地域との温かいつながりを深めていく。

○職員同士がつながるための工夫をすることで、主体性・専門性が高まる組織づくりに取り組む。

質疑応答の後、文部科学省初等中等教育局幼児教育課幼児教育調査官（併）教科調査官（併）国立教育政策研究所　教育課程研究センター研究開発部　教育課程調査官　平手咲子様より提言についてご指導いただいた。待機児童の一定の成果がみられたこと、量より質の向上へ政策の重点が移り、架け橋期の在り方について、「つながる」がキーワードになる、というお話もいただいた。

記念講演「「好き」を伸ばして広い世界へ！」では、ヴァイオリニストの廣津留すみれ様より、大分で過ごした幼少期や大学生活で培われた経験、特に、大学時代に出会った人々との関わりの中で好きを極めてきたことがより広い世界を知ることになったというお話を伺った。